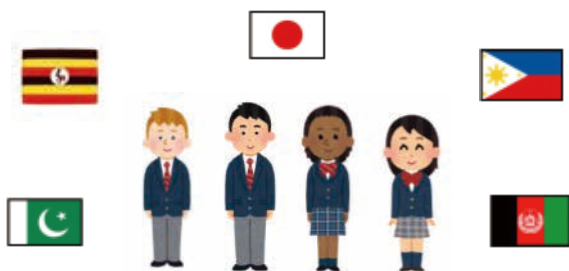




宮崎県では、7,011人（令和3年12月）の外国人の方が生活しており、日常生活で外国人と接する機会が増えた現在、お互いの文化的違いや価値を受け入れ、尊重し、より良い関係を築くための「多文化共生」の考え方が重要な意味を持つようになりました。教育現場でも子ども同士の異文化理解の向上や、多文化共生実現のためにあらゆる取り組みがなされています。

都城東高等学校 ～共に学ぶ外国につながる子どもたち～

外国にルーツを持つ生徒と共学



国境を越えて、国籍の異なる子ども達と一緒に教育を受けることができる場を提供しようという想いがきっかけで、様々な国から来日した子ども達を生徒として受け入れてきました。

充実した学校生活



生徒同士“一個人”として向き合い、文武両道な学生生活を謳歌しています。外国にルーツを持つ生徒たちも、生徒会や部活に入るのは当たり前だそうです。

～多様な背景を持つ生徒の受け入れに伴う課題と学校側の対応～

	課題	学校側の対応
日本語能力	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の頃は流暢でない ・サポートを必要とする ・「言葉の壁」問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後に日本語学習の場を設ける ・資料にルビを振る ・英語に翻訳した資料を配付する
人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・自己主張が控えめな日本人生徒と、はっきり自己主張する外国にルーツを持つ生徒同士の対立 	<ul style="list-style-type: none"> ・“日本人対外国人の問題”と捉えない ・違いを許容し、和解できるように生徒同士で解決させる
文化・慣習の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教儀式参加のため学校を欠席する ・体を覆うヒジャブの着用 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と相談し、個々の事情として配慮を行う

“外国籍、留学生だから”と特別扱いはしません。皆、本校の生徒の一員です。



都城東高等学校
井上 達也 先生

彼らは日本の学校に通い日本語で学びにきているので、日本人生徒と同じように接し、何事も自分の意志を持って取り組ませるようにしています。そうすることで、日本での生活における文化・慣習上の違いに対する理解力、適応力を身につけていきます。

また彼らの存在は日本人生徒にとってもメリットがあります。共に学校生活を送ることで、外国人に対して身構えることもなくなり、外国人だからというフィルターを通した見方をしなくなります。外国にルーツ持つ生徒との出会いをきっかけに、国際的な分野の学習や将来の仕事などに目を向けるようになった生徒もいます。

日本人と外国にルーツを持つ生徒がお互いの持つ素質を与えたり、受け取りながらハングリー精神のある子どもたちに育っていくことを期待します。